

「首里城を見に行った！宮城晴美さんから話を聞いた！」

文責 藤浪 海

〈午前〉首里城見学

今日は最初に琉球王朝の王城、首里城見学！
2000年には世界遺産にもなりましたね

FWでは天気も重要！
今日は気温もあまり高なくて歩きまわるには丁度良い天気♪
弥が上にも期待が高まります…！！



さてさて、正殿に向かって歩き始めるとまず見えてきたのは…
2000円札にも描かれている守礼門！！！！
やっぱり記念撮影している人が多かった…



守礼門から首里城に向かうには階段をたくさん登らねばなりません…
でも階段を登っている間も注目するところはたくさん！
例えば各所に、琉球石灰岩が使われていることに気がきます

沖縄 FW2日目（10月9日）



階段を登るゼミ生たち…
がんばれがんばれ！！

ちなみにそれぞれの門には、様々な意味が込められています
上の写真の門は漏刻門という名前。不思議な名前ですねー
門の檜に水槽をつくって、そこから水が漏れる量で時間を計ったことが名前の由来なんだって！

他の門にもさまざまな意味が込められています
訪れた時にはぜひどういう意味なのか確かめてみてください！！



いよいよ最後の門をくぐるゼミ生たちと先生…
そしてその先には…

沖縄 FW2日目（10月9日）



どーんと首里城正殿！！
本土には無い装飾がたくさん施されていますねー

たとえば…



これなんか、中国との関係が深かったことが伝わってきませんか？

そしてこの正殿と、南殿・番所、北殿の内部は、
琉球王府で使用された様々な文物などの展示室となっています

正殿の中は…



…ととても豪華でした。本土とは一味も二味も違います

沖縄 FW2 日目（10月9日）



当時の御庭を再現した模型…
こんなにも多くの方が首里城にいたのですねー

写真が小さくて見えないかもしれませんが、彼らは色とりどりの冠をかぶっています
彼らは冠の色で位階をあらわしていたのです



北殿の中には座るところも♪
いままでずっと歩いてきたからちょっと一休み…



蛇口にもこんな工夫が!!!



ゼミ生の展示資料を見る目は真剣です…

実は当初の予定では次は識名園に行く予定でした…
しかし！！ここにきて！！
首里城見学に思ったより時間がかかったことが判明…

というわけで識名園は諦め、首里城見学を続行することにしました！
首里城が面白いからそれで良いのです♪
識名園は、今度沖縄に行ったときに…

というわけで時間も余裕ができたので…



お土産選びにも精が出ます（笑）

これからまた坂を下っていくのだけれど、その途中には…



沖縄 FW2日目（10月9日）

これはなんなのでしょう？
実はこれ、旧日本軍の司令部の壕なのです…



入り口には「旧第三十二軍合同無線通信所跡」と書いてあります

首里城のなかにこんなものがあるなんてとても皮肉に感じます
琉球王国として繁栄していた沖縄…
しかし日本に組み込まれ、様々な問題に悩まされ、最終的には戦争の矢面に立たされる…

首里城の中にこんなものがあることが、沖縄の過酷な歴史をも思い出させます
首里城と壕の共存状況は、沖縄の複雑な立場をよく表しているということもできましょう

そして私たちは本土人という立場性に注意しながらこの共存状況の皮肉さを感じ、
二度と同じことを繰り返してはならないという決意を固める必要があるでしょう
それが歴史を学ぶことの一つの意味ではないでしょうか

そうして自らの立場性に注意して考えることで
現在沖縄が抱える問題（たとえば米軍基地問題）に対し
それを沖縄だけの問題ではなく日本全体の問題として捉えなおすことができ
自らがいかなる立場で居れば良いのか
そしてどのような行動をとっていけばよいのか
自ずと答えは見えてくるのではないのでしょうか

沖縄 FW2日目（10月9日）

さてさてそうこう考えているうちに、お昼ご飯の時間がやっていきました
腹が減ってはFWはできぬ！
というわけでお食事大好きゼミ生たちはお昼ご飯を食べに向かうことにしました



ちょっとおしゃれなレストランに行きました♪



勉強も真剣ですが、料理選びもそれと同じくらい真剣です…！！！！



料理が出てきて嬉しそう（笑）

しかし！！料理がおいすぎて！！
食事に時間がかかりすぎてしまった！！！！

沖縄 FW2日目（10月9日）

というわけで次に行こうと思っていた玉陵はキャンセル…

でも食事がおいしかったから良いのです♪
玉陵はまた次の機会に…



玉陵の入り口の写真だけ撮りました
さて次はいよいよ宮城晴美さんのお宅を訪問！！！！

〈午後〉宮城晴美さんの話

午後は宮城晴美さんのお宅で、座間味諸島の「集団自決」についての話を聞き、皆で話し合いました

私たちは事前学習で宮城さんの『母の遺したもの』を読んでいたから、
私たちにとってその著者から直接話を聞けるということはとても有意義なことでした！



話をしてくださった宮城晴美さん
スライドを準備してくださったばかりか、それを冊子にもしてくださいました



話の内容は「集団自決」
もちろん話をきくゼミ生の顔は真剣そのもの

話は「集団自決」がおこった背景や、行われた場面に関するものだけでなく、生き残った人の抱える葛藤、彼らに向けられる周囲の目など多岐にわたる内容でした

それだけに私たちとしても考えることは多く、質問や意見もたくさん出ました

例えば「『集団自決』で親族を殺した者の罪も、戦後問われなければならなかったのではないか」という意見。

アメリカに捕まり残酷な仕方で殺されたり、レイプされたりするのならば、自殺しようという考え方が「集団自決」の背景でした

しかし自力で死のうとしても、それは簡単なことではありませんだからこそ、家族のだれか（例えば夫・父親）が他の家族を殺す、という事態が起きることになったのです

しかし戦後、家族を殺した本人が一人生き残ってしまうこともありました戦後社会では彼らが他の家族たちを殺したという事実に対し、法的な裁きはないまま、目を瞑ってきました

「彼らの罪は戦後問われなければならなかったのではないか」という素朴な問いが出されました

この問題提起には話し合いの中で様々な意見が寄せられましたここではその意見を二つだけ紹介しましょう

まずは問われるべきとする意見から。
「問われなければならない。なぜなら彼らの罪を裁き、刑罰によってその罪を償わせることによって始めてその贖いが社会によって認められることとなり、周りから後ろ指さされることもなくなり、また彼ら自身も罪をあがなつたと考えられるようになるからである。戦時中とはいえ、殺人は罪である。」

沖縄 FW2 日目（10月9日）

一方で問わなくても良いとする意見も。
「問う必要はない。なぜなら彼らは相手のことを思って殺したのであって、殺さざるを得ない状況にあったといっても良い。その中で殺人に犯罪性があったといえるのか疑問だし、むしろ問われるべきは当時の皇民化教育であり、沖縄の住民保護を第一に考えなかった日本軍のあり方ではないか。個人の罪を問い、社会に公表し、さらに刑罰を受けたからといって、罪を贖ったと考えられるのかも疑問である。」

この森嶋外『高瀬舟』を思い出させるような（問題の複雑さは全く異なると思いますが…）論争に決着をつけるのは非常に難しいことです

私自身、どちらの意見も説得力があるし欠点もあると思います。

私自身の意見としては
罪を裁くのではなく、その罪を社会が認めることが重要なのではないかということです
つまり「集団自決」の状況や背景を、社会全体が認め理解することで
彼らの苦しみを認めていく姿勢が必要なのではないか
ということです。

そして彼らが一人抱えた苦しみを社会全体が共有し
二度と「集団自決」なる状況を生み出さないことが
彼らの救いに繋がっていくのではないかと思います

もちろんここにあげたどの意見にも問題があり、なかなか解答は見出せませんが、
私たちはこのような問題を考えることを通して「集団自決」とは何であったかを見つめなおし
今後の世界をどのようにすべきか、そして私たちはどのように行動すべきか
考え続ける必要があるといえましょう

さてさて真剣にいろんなことを考えた後はおなかが減るものです

というわけで…

宮城さんのお宅で小パーティーを開くことに！



料理を見るみんなの目はやっぱり真剣なものでした

沖縄FW2日目（10月9日）



ワインを抱き、幸せそう（笑）



フレデリックさんとアメリが作ったフランス風サラダ！！
とてもおいしくて、みんなから大好評でした♪

様々な話に花を咲かせながら、とても楽しい小パーティーでした
宮城さんたちにはとてもお世話になりました！今日は本当にありがとうございました！